

2011年に東日本大震災があり、15,894人の死者が出た。未曾有の被害をもたらした東日本大震災。震災を契機に、次代を担う生徒は何を考え、行動したのか。『Benesse VIEW21 2012年6月号』から紹介する。

甚大な被害を受けた東北沿岸部の公立**高校教師**が、震災以降の生徒の様子について語った。
(一部抜粋)

- 「これほどの力があつたのか」と教師が驚くほど、**生徒は強靱**です。震災の事実を受け止め、自立に向かおうとする生徒に共通しているのは、「被災地の生徒だから仕方がない」「被災して大変だから大目に見てやろう」と言われたくない気持ちです。
(宮城県立気仙沼高校 佐藤忠司教諭)
- 生徒の**強さの源**は、**感謝**にあります。自分一人のためだけでは、頑張りにも限界がありますが、**誰かのためならもっと頑張れる**。そういう強さが多くの生徒の中に育っている。
(岩手県立宮古高校 吉田達行教諭)
- 被災地支援では、生徒は自分の無力さを受け止めることを求められます。一人では厳しくても、**仲間がいれば頑張れます**。だから**友人と語り合う**ことは必要です。そして、気持ちをどう整理するか、教えることも大切です。
(兵庫県立舞子高校 諏訪清二教諭)

「生徒の**学びの姿勢**に変化はありましたか？」に対する回答(一部抜粋)は、

- **不自由なく学べる環境に感謝**し、ひたむきに学習する生徒が増えたように思う。
- 自分のことしか考えない生徒が減ったように思う。また、**自ら考えてボランティア**活動や募金活動を積極的にするようになった。
- 自分自身の置かれている状況や環境を理解し、その状況下で**最大限に努力**しようとする生徒が増えてきたと感じている。

全国の高校生が**震災をきっかけに考えたこと**を文章にまとめ、Web上で発表する「**高校生レインボープロジェクト**」(ベネッセ)へ参加した岡山県立勝山高校生の感想(一部抜粋)は、

- 全国の高校生のメッセージを読んで印象的だったのは、「私たち**若者が日本を変えていくんだ**」という言葉。復興は、国が決めた計画に従って進められていくものだと私は思っていました。でもそれは違うんだ、私たち皆で進めるのが大事なんだと、改めて思ったのです。
- 全国には節電やボランティアなど、自分ができることをすでに行動に移している高校生がたくさんいることを知りました。私は「**自分に出来ることをやろう**」と頭で考えたことはあっても、「**もっと自分に何か出来ることはないか**」とは考えてなかったのです。**高校生は微力かもしれないけれど、それでも実際に行動している高校生が全国にいることを知ったら、被災地の人たちも励まされるだろうなあ**と思いました。
- 若者が社会を変えていくためには、今は勉強して、将来**社会を変えていく力を蓄える**ことが大切だと考えるようになりました。勉強して、社会を変えることが出来る人間に私はなりたいです。**今出来ることはささやかなことばかりだけど、将来できることはいっぱいあるはずだから、将来のために今、勉強を頑張ろう**と思っています。

今回の新型コロナウイルスでは、日本で624人、世界で約28万人の死者(5/10日現在)が出て、私たちの生活にこれまでにない大きな影響を与えている。上で紹介した東北沿岸部の学校では、**東日本大震災**で同級生が帰らぬ人となったり、家族を失った同級生もいた。このような惨状の中で生徒・保護者・教師のつらさは、いかばかりのものだったろうか？

私たちは、学校に行けない等の苦しさはあるが、**生きている**。生きている限り、何らかの希望は持てる。明日から学校が再開される。当面の間は分散登校になるだろうが、困難な状況を共に乗り越えていこう！
God will never give you more than you can bear.